

13 新潟大学医歯学総合病院における周術期抗血小板薬・抗凝固薬使用での硬膜外麻酔の危険性の認知度について

佐藤 剛・岡本 学*・馬場 洋*
新潟市民病院麻酔科
新潟大学医歯学総合病院麻酔科*

静脈血栓塞栓症予防ガイドライン作成以後、術後抗凝固薬使用が頻用されるようになり、それに伴う硬膜外麻酔の危険性が注目されてきている。そこで麻酔科以外の医師・看護師に対して硬膜外麻酔に関する知識をどの程度理解しているのかアンケートした。その結果、看護師の硬膜外麻酔に対する理解が全般的に低く、医師では抗凝固薬使用時の対応法があまり理解されていないことが判明した。そのため安全な硬膜外麻酔を行うためには、当科による医師・看護師への硬膜外麻酔に関する教育や指導を行い、また当科作成による硬膜外カテーテル留置時の指針案を配布することで誤った抗凝固薬の使用や安易な硬膜外カテーテル抜去を未然に予防していく必要がある。

14 脊髄電気刺激装置のトラブルを生じた2症例

若井 綾子・岡本 学・富田美佐緒
馬場 洋
新潟大学医歯学総合病院麻酔科

脊髄電気刺激(SCS)にて良好な鎮痛効果を得られていたものの、その後刺激装置のトラブルを生じた2例を経験した。

1例は脊髄炎によるTh6領域の締付け感と両下肢の異常知覚を生じた患者で、突然SCSが作動しなくなった。電極入れ替えにて再び良好な鎮痛効果をえられた。棘突起で余剰電極がこすれて断線したと推測された。

2例目は右下肢のCRPS患者で体重減少を契機に腹部に埋込んだジェネレーターが遊走し腹痛をきたした。ジェネレーター固定術を施行し、従来の腹痛は消失したが新たに埋込んだ部分に腹痛を生じたため、固定糸の一部を抜去したところこの痛みも消失した。SCSの長期的効果向上には余剰電極の埋込み方やジェネレーターの固定の仕方に

も細心の注意を払う必要があると考えた。

15 腎がん及び肺がん手術後の硬膜外鎮痛

佐治 祥子・丸山 洋一・高田 俊和
高橋 隆平・北原 紀子
県立がんセンター新潟病院麻酔科

腎がん(44例)及び肺がん(135例)における術後硬膜外鎮痛の効果を、使用されたオピオイドと局所麻酔剤に注目して検討した。

モルヒネとフェンタニルを比較すると、鎮痛効果はモルヒネが優れている一方、嘔気などの副作用はフェンタニルが少なかった。腎がん術後では鎮痛効果に優れるモルヒネが有用であったが、肺がん術後では特に女性にフェンタニルのほうがトラブルは少なかった。

局所麻酔薬の種類(ブピバカイン・ロピバカイン)やその濃度による鎮痛効果の差は確認できず、むしろ高濃度のロピバカインでは運動神経麻痺の副作用のため、肺がん患者で一時的に使用が中止されるケースが多かった。

16 赤血球輸血用カリウム吸着フィルター使用中に高度の低血圧を来した5症例

平石 舞・大黒 倫也・飛田 俊幸
新潟大学医歯学総合病院麻酔科

赤血球輸血用カリウム吸着フィルターは陽イオン交換樹脂を輸血セットに組み込み血液製剤中のカリウムイオンを吸着除去するものである。平成14年から国内での臨床使用が承認され、当科でも腎不全患者、急速大量輸血が必要な患者を中心に使用が広がっている。国内での臨床第Ⅲ相試験で副作用の報告は無く、市販後調査で1例に血圧低下の報告がみられたのみであった。我々は現在まで12症例にカリウム吸着フィルターを用いて輸血を行い、うち5症例でカリウム吸着フィルターの使用が関連していると思われる高度の低血圧を経験したので報告する。